



最初にお読みください

CentreCOM® GS908M/916M/924Mリリースノート

この度は、CentreCOM GS908M/916M/924M をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。


最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 1.4.6

2 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン 1.4.5 から 1.4.6 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

2.1 SHOW INTERFACE コマンドのポート名表示

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SHOW INTERFACE コマンドで表示される Interface（インターフェース名）には常にポート番号が表示されていましたが、SET SWITCH PORT コマンドの DESCRIPTION パラメーターでポート名を指定している場合は、ポート名が表示されるようになりました。

また、SNMP の MIB オブジェクト ifDescr、ifName についてもポート名が返されるようになりました。

3 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.4.5 から 1.4.6 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 本製品自身が生成するパケット（BPDU や LDF など）が送出される時、同時に送出されるパケット数が 5, 9, 13, 17, 21 の場合、送信バッファが枯渇し、本製品宛ての通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 3.2 MIB-II の ifOutQLen が正しい値を返しませんでしたが、常に 0（ゼロ）を返すように修正しました。
- 3.3 スパニングツリー有効ポートに対して、DISABLE SWITCH PORT コマンドを実行し、その後 DISABLE STP コマンドと ENABLE SWITCH PORT コマンドを実行しても、該当ポートが通信可能になりませんでした。これを修正しました。

4 本バージョンでの制限事項


ファームウェアバージョン 1.4.6 には、以下の制限事項があります。

4.1 フラッシュメモリーの空き容量

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ファイルシステム」

フラッシュメモリーに 128KByte 以上の設定ファイルが存在する状態で、起動時設定ファイルの指定を切り替え続けていると、本製品がハングアップする場合があります。

4.2 SNMP

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- SNMP マネージャーのタイムアウトによって、同時に5 個以上のSNMP マネージャーから ifEntry を Get できない場合があります。SNMP マネージャーのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。
- ファームウェアバージョン 1.4.5 で、ループガード（受信レート検出 / LDF 検出）がサポートされ、CREATE SNMP COMMUNITY コマンドおよび ENABLE SNMP TRAP コマンドの TRAP パラメーターに STORMDETECTION と LOOPDETECTION の指定ができるようになりました。これにより、バージョン 1.4.0 以前で TRAP パラメーターに ALL を指定している場合、1.4.5 以降へのバージョンアップ時に設定が以下のように反映されますので、ご注意ください。

バージョン 1.3.2 以前で ALL を指定して作成された設定ファイル：

CREATE SNMP COMMUNITY コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION が含まれます。

ENABLE SNMP TRAP コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

バージョン 1.4.0 で ALL を指定して作成された設定ファイル：


CREATE SNMP COMMUNITY コマンド

→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

ENABLE SNMP TRAP コマンド


→ STORMDETECTION と LOOPDETECTION は含まれません。

4.3 RADIUS サーバー

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」


802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドの DEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。SET RADIUS コマンドの DEADTIME パラメーターが 0（ゼロ＝デフォルト）の場合、本現象は発生しません。

4.4 ループガード（受信レート検出）

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」


受信レート検出機能を使用する際、エラーパケットを受信した場合も受信レートカウンターに計上されます。

4.5 スイッチング

 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」


- スイッチポートの通信速度を AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO に設定すると link-down、link-up メッセージが表示されないポートがあります。
- SET SWITCH PORT コマンドの PORT パラメーターに ALL、SPEED パラメーターに AUTONEGOTIATE 以外を指定して実行すると、コンボポートに対して 1000MFULL が設定されます。コンボポートをオートネゴシエーションで動作させたい場合は、再度設定してください。
本現象は、Web GUI では発生しません。
- COPPER（1000BASE-T ポートのみ使用可能）に設定されたコンボポートでポートトランキングを構成すると、通信できない場合があります。
本現象は FIBER（SFP ポートのみ使用可能）設定時には発生しません。
1000BASE-T ポートでポートトランキングを構成する場合は、コンボポート以外のポートを使用してください。
- 通信モードが 1000M Full Duplex 固定に設定された光ポート（SFP ポート）に対して、物理的にリンクダウンさせる設定を行わないでください。
DISABLE SWITCH PORT コマンドによる LINK=DISABLE の設定、および SET SWITCH LOOPDETECTION/STORMDETECTION コマンドによる ACTION=LINKDOWN の設定が本制限に該当します。

4.6 IGMP Snooping

 「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」


- IGMP Snooping 有効時、メンバーが存在するポートをミラーポートに設定しても、IGMP Snooping 用のテーブルから該当ポートの情報が削除されません。
- IGMP Snooping と EPSR アウェアまたはスパンニングツリープロトコル併用時、経路の切り替えが発生したときにマルチキャストグループの登録がクリアされないため、切り替え前に登録されたルーターポートが残ったままになります。

4.7 スパニングツリー

 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」

本製品の実装では、トポロジーチェンジ発生時にエッジポートに設定されたポートの FDB が消去されます。

4.8 Web GUI

 「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」

- 存在しない RADIUS サーバーを登録し、GUI からのログイン時にデフォルト以外のユーザー名とパスワードを入力すると、RADIUS 認証のタイムアウトが発生するまでの時間が設定時間よりも長くなる場合があります。
本現象は、CLI では発生しません。
- 通信負荷が高い状態で、Web GUI からファームウェアをダウンロードすると、ファームウェアのアップデート完了後、アップデートの進捗画面が自動的に閉じられないことがあります。

5 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足

取扱説明書、および「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.4.5 (J613-M0220-03 Rev.E)」の補足事項です。

5.1 FAULT LED の点滅条件

 「取扱説明書」24 ページ

ファームウェアバージョン 1.3.2 から 1.4.0 へのバージョンアップにおいて、FAULT LED の点滅条件が、以下のように変更になりました。

- 1 回点滅：
(約 1 秒の点灯と約 1 秒の消灯を繰り返す場合)
本製品起動中、またはフラッシュメモリーに書き込み中
(点滅と点滅の間の消灯時間が約 2 秒間の場合)
ファンの異常発生時
- 3 回点滅：
電圧の異常発生時
- 6 回点滅：
内部温度の異常発生時

5.2 サポートする MIB について

 「取扱説明書」108 ページ

ファームウェアバージョン 1.0.0 から 1.1.0 へのバージョンアップにおいて、ブリッジ MIB に対応しました。これにともない、「本製品の仕様」の「サポート MIB」に、ブリッジ MIB (RFC1493) を追加します。

5.3 NTP

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」


登録された NTP サーバーがネットワーク上に存在しない状態で RESET NTP コマンドを連続して実行すると、ARP Request が正常に送信されない可能性があります。このような状態で RESET NTP コマンドを連続して実行する場合は、1 分以上の間隔をあけるようにしてください。

5.4 IP

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP エコー要求 (Ping) パケットを受信したとき、応答に 20 ミリ秒程度かかる場合がありますが、これは正常動作です。

5.5 スイッチング


 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される FCSErrors カウンターと、ExcessiveCollisions カウンターが正しくカウントされません。
- SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される送信トラフィックカウンターの「Discards」は、指定ポートで受信したパケットを他ポートから送信する際に、パッ

ファアのオーバーフローなどで破棄されたパケットの数です。指定ポートから送信される際のカウンターではありませんので、ご注意ください。


- リンクアップしているポートに対して、SET SWITCH PORT コマンドの SPEED パラメーターに現在の通信モードと同じモードを指定してコマンドを実行すると、対向機器のポートの通信モードがオートネゴシエーションの場合に限り、本製品の該当ポートがリンクダウンします。
- オートネゴシエーションでリンクしている 1000M 光ポート (SFP ポート) に対して、通信モードを 1000M Full Duplex 固定に変更する設定を行っても、リンクダウンは発生しません。
- イングレスフィルタリング無効時は、受信パケットの VID が受信ポートの所属 VLAN と一致していない場合でも該当パケットは破棄されませんが、ポート認証やポートセキュリティによってスタティックエントリとして FDB に登録されている MAC アドレスを送信元 MAC アドレスに持つパケットについては、VID が一致していないと転送されずに破棄されます。
- EAP 透過機能有効時に、タグ付きポートから送出される EAP パケットにはタグが付与されます。

5.6 ポートミラーリング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**


タグ付き設定のソースポートでタグ付きパケットを受信すると、タグなしでミラーポートから出力されます。

5.7 パケットストームプロテクション

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

SET SWITCH LIMITATION コマンドで、受信上限値に 1500 (pps) 以上を指定して、パケットストームプロテクションを有効にすると、受信レートが設定値に達しない場合があります (ブロードキャスト / マルチキャスト / 未学習のユニキャストパケットで共通)。

5.8 IGMP Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**

- Leave メッセージを受信したあとも Group Address、VLAN 名は SET IGMP SNOOPING TIMEOUT コマンドで設定した時間まで削除されません。TIMEOUT=0 設定時は Leave メッセージ受信後、約 60 秒で削除されます。
- 存在しないマルチキャストグループ宛ての Group-specific Membership Query を受信すると、破棄されずにフラッディングされます。

5.9 ポート認証

 **「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」**

- SET PORTAUTH PORT コマンドで MODE パラメーターに MULTI (Multi-Supplicant モード) を指定したポートに対して、さらに SET PORTAUTH PORT コマンドの PIGGYBACK パラメーターに ENABLED を指定して実行することが可能です。設定が反映されることはなく、動作に影響はありません (Multi-Supplicant モードのポートでは、PIGGYBACK は有効になりません)。

- Multi-Supplicant モードに設定された Authenticator ポートにおいて、Authenticator からの EAP-Request に対して、Supplicant から PAE グループアドレス (01:80:C2:00:00:03) ではなく、本体 MAC アドレス宛てに EAP-Response を送信された場合、正しく認証できません。

5.10 Web GUI

「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」

Web GUI の「セキュリティ設定」 - 「ポート認証」の「ポート設定」で、Authenticator ポートのモード (Mode) に Multi を指定していても、Piggy back モード (PiggyBack) で Enabled の選択が可能です。設定が反映されることはなく、動作に影響はありません (Multi-Supplicant モードのポートでは、Piggy back モードは有効になりません)。

6 未サポートコマンド

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

SET HTTP SERVER PORT

SET SYSTEM LANG

7 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM GS900M シリーズ コマンドリファレンス 1.4.5 (J613-M0220-03 Rev.E)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0220-03 Rev.E」は、コマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>